



## ■ 「RLIと公共イメージについて」

ロータリーリーダーシップ研究会は1992年に米国で始まり、2008年に日本に導入された。このディスカッション型の研修に初めて触れたのは2015年1月にガバナーエレクトとして参加したサンディエゴの国際協議会であった。それまで同期のガバナーエレクトとロータリーについて話し合う機会があったが、この時初めて本格的な意見交換ができたように思う。同期の皆さんの人となり、知見を知る機会ともなった。「縦型リーダーシップから横型リーダーシップ」へ社会も大きく変遷している時代にあつて、RLI方式の研修会の有効性が增大していると思われる。RI、地区、クラブという縦型リーダーシップに久しく慣れ親しんだロータリーにあつて新しい動きとすることができる。横型リーダーシップにおいて重要なのは「ダイアログ(対話)」である。元々、共同体的組織として出発したロータリーにおいて対話は重要である。何故なら共同体的組織にとって構成員の満足度が最も重要な要素であるからである。ロータリーにおいて親睦が強調されるのはこのためである。「公共イメージと認知度の向上」というとSNSによる対外的発信に目が行きがちであるが、ロータリアン一人ひとりの満足度の向上とロコミによる広がり程、低コストで効果が大きいものは無いと思う。

第2ゾーン ロータリー公共イメージコーディネーター 柳生 好春(野々市RC)

## ■ 「世界を変える行動人」

今、なぜ公共イメージと認知度の向上が必要なのかをもう一度考えてみましょう。この二つを向上させる事は会員増強と密接な関係にあるのは言うまでもありません。公共イメージと認知度を向上し会員増強に繋げる事によってロータリーが今以上に社会に奉仕出来る方法は幾つもあると思います。ロータリーデーを行う事も重要ですが、その前にロータリアン一人一人が「ロータリークラブの会員とはどのような人達か」「ロータリークラブは何をしているか」「ロータリーはなぜ必要なのか」などを自らの言葉で一般の人達や入会候補者に説明できる事が大事です。例えばRIとロータリー財団が最優先で取り組んでいるポリオ撲滅については東京麹町RCが会員のビジネスコンサルタント山田ツネさんと泌尿器科の医師峰英二さんを中心に「南インド・ポリオ免疫プロジェクト」として始めた活動が最初で本当に「あと少し」でポリオ(小児麻痺)のない世界を子供たちにプレゼント出来る事。またロータリアン一人一人の体験で得たロータリー活動の素晴らしさを言葉で直接発信する事などが挙げられます。言葉で直接伝えるその行動が「世界を変える行動人」としてのスタートではないでしょうか。さあ今、世界を変えるロータリアンになりましょう。

第2ゾーン ロータリー公共イメージコーディネーター補佐 原 拓男(佐久RC)

## ■ 「職業奉仕の手引き:実践しよう」

1月は職業奉仕月間でしたが、皆様のクラブではどのように取り組みましたでしょうか。国際ロータリーの冊子に「職業奉仕の手引き:実践しよう」(商品番号:255)[電子版のみ](2017年10月版)がありますので紹介をします。

内容は「ロータリーの目的」の第2項「職業奉仕」の実践を総合的に紹介した冊子です。「職業奉仕」とは具体的にどのように実践できるのか、哲学的な概念からその成り立ち、実践例、関連リソースの案内まで網羅した12ページの手引きです。

内容の一部を紹介しますが、「職業奉仕」という概念については「ロータリーの目的」の第2項を土台としており、この項で、ロータリアンは次のことを奨励し、育むことが求められていますと記述されています。

- ・職業上の高い倫理基準
  - ・役立つ仕事はすべて価値あるものという認識
  - ・社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものとする
- 職業奉仕の実践については、以下の方法をご紹介します。
- ・例会で、各会員が自分の職業について話し、互いの職業について学び合う
  - ・地域社会での奉仕プロジェクトで職業スキルを生かす
  - ・高潔さを重んじて仕事に取り組み、言動を通じて模範を示すことで倫理的な行動を周囲に促す
  - ・若者のキャリア目標を支援する
  - ・専門能力の開発を奨励し、指導する

紙面の都合上すべてを紹介できませんが是非一読してみたいかと思いますが。

ロータリーにとって職業奉仕は最も重要なことの一つです。職業奉仕はロータリーの核心であり、個々のロータリアンとして職業を営む上でも、クラブとしても世界中の地域社会で奉仕を行う上でも土台となるものです。

第1ゾーン ロータリーコーディネーター 酒井 正人(函館五稜郭RC)